

学校だより 2月号

令和5年1月31日



横浜市立義務教育学校

緑園学園

RYOKUEN COMPULSORY EDUCATION SCHOOL

横浜市泉区緑園五丁目28番地 前期課程 ☎045(811)6710 後期課程 ☎045(811)6030

「よりよい社会へ～ 一歩ふみ出し、行動しよう」

前期課程 副校長 丹野 一郎

厳しい寒さが続く中、暦の上では立春が間近となり、春の訪れを心待ちにする季節となりました。気がつくと、近辺の梅の花も咲き始め、ほのかに甘い香りを漂わせています。そんな折、学校では、インフルエンザや風邪症状で欠席する児童生徒が増えてきています。新型コロナウイルス感染症をはじめ、インフルエンザや風邪の予防のため、日頃より体調を整えることを学校でも指導をしていますが、ご家庭でも「手洗い」や「うがい(場所に応じて)」、そして「十分な睡眠」がとれるようご配慮をお願いいたします。

先日、校舎内を巡回していると、7年生の教室前に掲示されている「SDGs行動宣言」が目にとまりました。1組は「海の豊かさを守ろう」、2組は「ジェンダー平等を実現しよう」、3組は「陸の豊かさを守ろう」と、3クラスそれぞれが違ったテーマで活動していました。7年生の皆さん一人ひとりが、テーマに沿って、自分が行動していること、行動出来そうなことを宣言し、その宣言に込めた思いを綴っていました。

7年生の行動宣言を見て、私はある新聞記事を思い出しました。その新聞記事とは、昨年11月に、川崎レナさん(17歳)という大阪府の高校生が、子どもの権利を守ることに貢献した若者に送られる「国際子ども平和賞」を、日本人で初めて受賞したというものです。この賞は、これまでに、パキスタン出身で女性教育活動家のマララ・ユスフザイさんや、スウェーデン出身で環境活動家のグレタ・トゥンベリさんなども受賞しました。

川崎さんは、子どもたちが社会をよくするアイデアをもったときに、学校以外で実現できる場が必要だと考えて、14歳の時、社会問題を解決していく若いリーダーを育てる国際NGO「アース・ガーディアンズ」の日本支部を立ち上げました。現在、小学生から高校生まで約50人が参加しているそうです。川崎さんが特に力を入れているのが、若者と政治の距離を縮める活動です。大阪府内の高校生と政治家をオンラインでつなげ、語り合う場を定期的に関き、若者の声を政治の場に届ける橋渡しをしています。

川崎さんが、このような行動をするきっかけになったのは、8歳の時に『ランドセルは海を越えて』という本を読んだことでした。川崎さんは、日本からアフガニスタンに寄付されるランドセルが、子どもたちの学ぶ機会を支えることを知り、世界には、自分の権利のために戦わないと教育を受けられない子どもたちがいることに強い衝撃を受けたそうです。その直後の文化祭で、絵などの作品を売って集めた5万円を、アフリカの途上国の難民キャンプに寄付したのが最初の社会活動でした。

川崎さんは、何か行動したいと考えている小学生や中学生には、こう言葉をかけます。

「一番難しいのは、一歩ふみ出すこと。でもその一歩をふみ出せば、話を聞いてくれる大人がいたり、仲間を見つけられたりする。子どもだから浮かぶアイデアがあるはず。自信をもち、自分の芯を強くしてください。」

本校では、「9年間で育てる子ども像」の達成のために、持続可能な社会を目指して行動できる人を育てる教育(ESD)を推進しています。7年生の皆さんの中には、「SDGs行動宣言」の実現に向けて、すでに行動していたり行動しようと考えたりしている人たちがいます。現代社会における待った無しの山積した課題を解決していくために、本校から一人でも多くの「一歩ふみ出し、行動しよう」とする若者を育てていきたいと思っております。